

環境工学連合講演会の新たな運営体制

環境工学連合講演会の歴史を紐解くと、日本学術会議第 12 期(1981-1984 年)に当時の第 5 部に環境工学研究連絡委員会が設置され、環境問題への学際的取り組みの推進のため、19 の学協会が選任した実行委員が検討を重ね、1986 年 3 月に「環境工学のフロンティア」を統一テーマとする第 1 回講演会が開催されたことに遡ります。その後、社会環境工学研究連絡委員会環境工学専門委員会が主催母体となり、2005 年 2 月の第 20 回まで回が重ねられました。

2005 年 10 月を期初とする第 20 期から、学術会議の組織が改変されたことに伴って、日本学術会議にける本講演会的主催母体は土木工学・建築学委員会へと移行し、2007 年 4 月の第 21 回以降、東日本大震災に伴う第 25 回講演会の翌年への繰り延べを挟んで、今回、第 30 回を迎えるに至りました。

本講演会の運営にあたっては、当初から、土木学会、日本化学会、日本建築学会、化学工学会、日本機械学会、空気調和・衛生工学会、日本水環境学会、資源・素材学会の 8 学会に、輪番で幹事学会を務めていただきました。毎回、幹事学会のもとで運営委員会を組織して開催企画案を作成し、申請に基づいて主催の許可を得る形式であるため、主催許可を得るまでは幹事学会の自主的な活動に依拠することとなり、講演会の広報や中長期的な方針の検討が行いにくいなどの課題が指摘されてきました。

このため、昨年の第 29 回講演会の開催時に環境工学連合講演会のあり方に関する打合せ会を開催するなど、土木工学・建築学委員会学際連携分科会のもとで、今後の運営体制について検討し、第 30 回講演会の運営委員会にその再編案を諮ってまいりました。多少の紆余曲折もありましたが、土木工学・建築学委員会学際連携分科会のもとに環境工学連合小委員会を設置し、幹事学会のもとで組織される実行委員会と協力して講演会の企画、実行にあたる案をお認めいただきました。小委員会の設置申請は既に承認されており、第 30 回講演会開催日に第 1 回小委員会を開催する運びとなりました。小委員会の設置によって、次回以降の講演会の企画や広報をより円滑に行うことが可能となり、また、環境工学分野の学際的な連携の方針に関する議論を行うことができる場が設けられることとなります。

運営体制の再編にあたり、第 30 回幹事学会である空気調和・衛生工学会の多大なご尽力をいただいたことに謝意を表するとともに、本講演会に共催者として参画いただいている各学協会に、新たな運営体制のもとでの一層のご協力をお願いする次第です。

平成 29 年 5 月 23 日

日本学術会議土木工学・建築学委員会学際連携分科会	委員長	米田雅子
	副委員長	森口祐一
	委員	嘉門雅史